

多高通信

第14号 平成29年7月27日発行



さとく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

白熱！球技大会！

6月28日・29日の2日間、多高3大行事の一つである球技大会が行われました。

■球技大会実行委員長

竹田風香(3年4組 玉川中出身)

今年は昨年が続いての実行委員で、今年は新しいことにチャレンジしようと思ひ実行委員長を務めることになりました。委員会をまとめる委員長は前日まで準備で忙しく、当日は総括として本部で座っているだけ！と思っていたのですが、全くの勘違いでした。実際、やらなければならぬことや考えなければならぬことで頭がパンクしそうになってしまいました。紙にスケジュール表とやることリストを書き、目に見える形にして、他の実行委員のメンバーに協力してもらい、何とか乗り越えることができました。高総体と定期テストを挟む日程のため、実行委員それぞれも忙しい中、一致団結して準備を進め、球技大会当日は全校生徒の皆さんに楽しんでもらえたと思っています。

委員長という仕事を通して、リーダーの大変さ・大切さを学ぶことができましたし、何かを作り上げることの楽しさを感じることもできました。また、仕事をしながら人脈も広がっていき、私自身大きく成長できたと実感しています。協力してくれた皆さん、担当して下さいました先生方、本当にありがとうございました。



選手宣誓
最高のパフォーマンス！



どの種目でも熱戦が繰り広げられました！

災害科学科「自然科学と災害A」 永幡嘉之氏特別授業

6月23日、災害科学科1学年生徒を対象に「自然科学と災害A」特別授業を実施しました。国内外の生物を追い求め、環境保全の立場からも様々な保護活動をされている自然写真家の永幡嘉之氏を講師として招き、東日本大震災が生態系に及ぼした影響と人間生活とのつながりについて、数々の写真とともに実体験に基づいたお話をいただきました。



東日本大震災による大津波によって、生きものはなくなつたように見えましたが、人々はいなくなつたと思ひ込んでしまいましたが、実際にはその土地には多くの生きものが残っていました。さらには、昔そこにいた植物の種類から、開発によって失われていた植物が再生する様子も見られ、永幡氏はそういった事実を記録に残してきました。

自然災害や防災、復興というのはYes.Noといった解が一つに定まるものではありません。その中に社会的な視点や科学的な視点など、様々な視点を持つて向き合うことが必要だと語る永幡氏の言葉には、永幡氏の人柄や生き方が強く感じられました。科学的な視点から震災や復興を考えることを初めて行う生徒も多く、新たな視点から災害科学を考える貴重な講話となりました。

くらしと安全A 特別授業

災害図上訓練(DIG)

6月27日、くらしと安全Aの特別授業「DIG(災害図上訓練)」が行われました。講師に八千代エンジニアリング株式会社の寺脇氏と加藤氏をお招きし、2年2組(普通科)と2年7組(災害科学科)で授業を行っていただきました。



多賀城市で発生した過去の災害やハザードマップ、洪水・土砂災害などについて学んだ後、グループごとにDIGに挑戦しました。どちらのクラスでも設定や地図を踏まえながら、どのように避難をすれば良いかを考えることができました。特に7組はこれまでの専門的な学びを生かして、地形や状況などから幅広い想定を考えていたのが印象的でした。

災害はいつ、どこで起こるか分かりません。今回の学びをきっかけに、もしものときに適切な避難ができるようになってもらえればと思います。

吹奏楽コンクール 県大会

金賞受賞・東北大会出場！



吹奏楽部部長 阿部愛優子(3年2組 塩竈三中出身)
7月8日、イズミティ21で全日本吹奏楽コンクール宮城県大会が開催され、私たち多賀城高校吹奏楽部は金賞を受賞し、東北大会出場を決めることができました。例年は7月の中旬に地区大会、8月上旬に宮城県大会が行われるのですが、今年は全国総文祭が宮城で開催される関係で、1か月早い県大会となりました。

例年と違う日程や、練習時間が多く取れなくなつてしまったことで不安や焦りがありました。顧問の平山先生やたくさんの講師の先生方の熱心な指導で、私たちの音楽を上げることができました。今回の県大会では、1位の団体に贈られる海鋒義美賞の受賞は逃してしまい、悔しい気持ちを残してしまいました。この悔しさをバネに、全国大会で金賞を受賞するという目標を達成できるよう、今後も日々の練習に取り組みます。応援よろしくお願ひします！

七ヶ浜・宮浦田海水浴場

1000人ビーチクリーン

今年から本格的なオープンを迎える七ヶ浜の宮浦田海水浴場で、7月9日、オープン前の大規模な清掃イベント「1000人ビーチクリーン」が行われ、本校の軽音楽部、家庭部や、生徒会をはじめとするボランティア有志が参加しました。炎天下の中、会場には県内外から950人のボランティアが駆け付け

ました。また、午後には、軽音楽部・家庭部が、海開きに向けた海の家の建設やテント張りの屋根のペイント作業の手伝いを行いました。



ジャマイカ教育大臣来校

7月13日、防災、減災について日本の教育の現状を視察するため、ジャマイカからルエル・B・リード教育大臣をはじめ、10名の視察団が本校に来校しました。

本校の防災教育について佐々木校長が説明した後、災害科学科2年生の松嶋祐典くんが、英語で授業の内容などについて説明しました。質疑応答の中で、視察団の方々からもジャマイカの現状について簡単なお話があり、リード教育大臣と佐々木校長とが防災教育の現状について語り合いました。視察団の皆さんは、災害科学科1年生の災害時の妊婦や乳幼児の避難時の課題や対応を学ぶ「くらしと安全A」の授業で、生徒が妊婦ジャケットを着用して疑似体験する様子などを見学し、リード教育大臣は「実践的な教育を受けて、それをコミュニティで活かしていこうとする取組は素晴らしい。ジャマイカでも子供が災害に対応し、防災を仕事にしたいと考える子供が出るようにしたい。地震や洪水の多いジャマイカにも参考になる。」と話しました。



災害科学科 浦戸巡検

7月14日、災害科学科1年生による塩竈浦戸巡検が行われました。今回の巡検には、昨年に続き引き続き二度目の参加となる北海道室蘭栄高校から5名の生徒が加わり、雲一つない晴天の中、地学班と生物化学班に分かれてフィールドワークを行いました。巡検の前日に、国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)の小俣珠乃博士による事前講義を聴講しての実施となりました。

地学班は、寒風沢で目の前に広がる野々島の層準や見方を班ごとに小俣博士からレクチャーしていただき、その後野々島に渡って毛無崎での大塚層・松島層の観察を行いました。その後は大塚層に見られる小断層の走向・傾斜測定を通して、野々島一帯の地質構造を考察しました。露頭では小俣博士の解説を受けながら、班ごとにコアでの測定を行いました。

生物化学班は、寒風沢においてマツの生育環境を調査しながら、島の豊かな植生を観察しました。そして、野々島に渡ってから本格的にマツ及び土壌のサンプリングを行い、照度の測定、採集、coreを使った記録など、役割を分担しながら必要なデータやサンプルを収集してきました。

今回の巡検を通して、調査研究の具体的な手法を学び、教室では得ることのできない沢山の情報を手に入れることができました。今回の巡検から得た経験は、これからの課題研究に大いに役立つものとなります。

サイエンスデイ2017

7月16日に東北大学川内北キャンパスを会場に開催された『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ2017』において、科学部が「身のまわりにひそむ寄生虫」を



テーマに展示を行い、多くの来場者に寄生虫の顕微鏡観察や、その生態について発表しました。

その展示内容が評価され、7月21日に東北大学カナルサイエンスキャンパスホールにて開催されたサイエンスデイAWARD 2017表彰式で、東北大学大学院医学研究科長賞、日立ソリューションズ東日本賞など合計9つの賞を受賞しました。



サイエンスデイAWARDは、結果に至るまでのプロセスが「知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資する」という観点、つまり、科学や技術の成果だけではなく、科学的なものの方や考え方、科学に対する姿勢という視点から評価を行うもので、58の団体・個人により賞が創設されています。

■科学部部長 山本涼平(2年5組 高崎中出身) 私達科学部は今回初めてサイエンスデイに参加しました。サイエンスデイでは寄生虫をテーマに、サナダムシの実物大模型や生きたアニサキスを顕微鏡で見てもらうなど、来場する子供達をいかに楽しませるのかを考え、工夫を凝らした展示になったと思います。本番では様々なトラブルがありましたが無事に終えることができ、更には9つもの賞を受賞することができました。10月15日には地元多賀城市でもサイエンスデイが開かれます。そこでは更に充実した展示で子供達を楽しませたいと思います。

軽音楽部 県大会

準グランプリ受賞!

7月17日、専門学校デジタルアーツ仙台のシアターホールで宮城県高等学校対抗バンド合戦が行われ、3年生バンド Siderite(シダライト)が部を代表して出場し、準グランプリを受賞しました。

■菜花芽衣(3年3組 高砂中出身)

グランプリを目指し、日々楽曲制作や練習を積み重ねてきた私たちにとって、グランプリ・全国大会出場をあと一歩のところまで逃してしまっただけでも悔しい結果でしたが、多高音部の代表という自信と自覚を持って、グランプリを目指しここまで一生懸命努力することができたのは、顧問の近野先生の二指導や部員の支えがあ

あつてそだと思えます。

今回の県大会で受賞したバンドは、8月10日に長町のライブハウス・仙台PIITで行われる Earth School Premium Live 2017に出演します。今回の大会では1曲のみの演奏でしたが、このライブでは今までに私たちが作った他のオリジナル曲も演奏します。より多くの皆さんに私たちの演奏を聴いていただける機会になると思うので、私たちの世界観や想いを音楽で伝えることができた嬉しです。

あと2か月ほどで引退となってしましますが、残りわずかとなったステージで、今まで支えてくださった方々や応援して下さった方々に感謝して、精一杯演奏したいと思えます。



JICA青年研修プログラム

フィリピン行政官来校

7月19日、フィリピンの地方行政の防災担当者16名が、JICA青年研修プログラムの一環で、本校の防災・減災教育について学ぶため来校しました。

本校の防災・減災教育について佐々木校長より説明した後、3年生の「英会話」の授業に参加し、本校における様々な取組を英語でプレゼンテーションする生徒に対し、行政官の方々もフィリピンの現状や水害対策などについて紹介し、お互いの取組について意見交換を行いました。また、行政官の方々が、フィリピンの各地域に伝わる踊りを実演するなど、お互いに有意義な時間を過ごすことができました。



午後からは、語学研究部の案内で多賀城市内を「まち歩き」しました。イオン多賀城の駐車場で、津波が押し寄せる当時の映像を見ながらの生徒の説明に、多くの質問があり関心の高さが窺えました。また、本校で市内各所に

設置した津波波高表示板を巡り、歩きながら生徒が英語で説明したことに熱心に質問するなど、時間を延長して「まち歩き」を行いました。

学校に戻った後は、語学研究部の生徒たちと座談会を行い、本校で作成した防災マップを使って意見交換を行いました。フィリピンの方々からは、「防災マップが素晴らしい、是非、地域の取組として取り入れたい。教訓を伝えることが大事である。」という声が聞かれました。

■語学研究部部長 佐藤千咲

(3年2組 利府西中出身) 今回、語学研究部は多賀城市内のまち歩きの案内と七ヶ浜の菖蒲田浜についての発表を行いました。

まち歩きは、多賀城イオンからスタートし、本校が設置した波高標識、末の松山、砂押川について東日本震災に関連付けて説明していくのですが、災害に関する専門用語も調べながら原稿作りをしていかなければならなかったため、多くの時間を費やしました。顧問の先生やALTの協力でしっかりとした文章を完成させることができました。案内の当日は、最初のうちは緊張して英語が片言になってしまったのですが、徐々に慣れていき、思った通りに話すことができました。

また、菖蒲田浜についての発表では、パワーポイントの作成が不慣れで手間取ってしまいました。重要なポイントは伝えることができました。

今回の企画は私たちにとって非常に貴重なものになりました。フィリピンの皆さんにとっても良い経験になってくれていることを願っています。企画してくださった教頭先生をはじめ、協力してくださった皆さん、ありがとうございました。

7月8日 オープンスクール

たくさんの中学生・保護者の皆様などにお越し頂きました。ありがとうございました!

